

研修名 保健衛生・安全対策

令和元年12月20日（金） 13:30～16:00

講演 「事故防止及び健康安全に関する組織的取組」

「災害への備えと危機管理」

講師 株式会社アイギス 代表取締役 脇 貴志 氏

1. 事故防止及び健康安全に関する組織的取組

1) 安全について組織的取組の問題点

①ウィークストリンクの法則

- ・ウィークストリンクとは鎖の強さはその環の一番弱いところどまりである。つまり一つでも弱いところがあればそれ全体が弱いことになる、と言う意味。
- ・一人でも意識の低い職員がいると、そちらに全体が引っぱられる。
- ・意識の低い人の底上げが重要。

②壊れ窓理論

- ・小さなほころびでも大きくなる。
例：玄関が汚い、ポスターの端がはがれている、花が枯れているなど
- ・職員の無関心、視野の狭さが大きな事故につながる。

③目的達成につながっていない仕組み

- ・ムリ、ムラ、ムダのある仕事ではだめ。
- ・ヒヤリハットは集めるだけでは意味が無い。分析し、その後の行動や職員の動線、視野などを考え予防策を抽出することが大切。
- ・事故を予防するには、事故の起こる原因、経緯を考える。

2) 安全について個人的な問題点

①リスクの固定化

- ・リスクは固定化、パターンで認識してはいけない。全てはケースバイケースで決まる。
- ・事実が見えなくなりがちになる。

②効率化という名の手抜き

- ・効率化とは何度やっても同じ結果が出る。
- ・手抜きはムラがある。
- ・結果に影響するようなことは手抜きをしてはいけない。

③正常性バイアスに呪縛された思考

- ・人間の脳には常にバイアスがかかっている。これは自分を落ち着かせるために自然とそうなっている。これを解く訓練をせねばならない。
- ・自分は正しい、大丈夫だと思うのはだめ。

2. 災害への備えと危機管理

1) 災害に対する社会の変化

①国土交通省 「進行型災害」「突発型災害」にわけ、「先手防災」を推奨

- ・とりわけ、「進行型災害」への先手防災を推奨している。

②タイムライン防災が社会に浸透

- ・「タイムライン防災」が社会に浸透しつつある。

例：鉄道の計画運休、大型ショッピングモールの早目の弊社など。

- ・保育施設でもタイムライン防災を活用すべき。実際千葉市は行政がレベル3で保育施設を閉園すると定めている。

例：台風の進路から考え、4日前に閉園する可能性があるという手紙やメールを出す、2日前にやはり危険性が高いので閉める可能性がある、前日に明日は閉園するとお知らせする。

③「計画運休」と「命を守る行動を」が流行語大賞にノミネート

- ・「計画運休」と「命を守る行動を」が流行語大賞にノミネートされたということは、社会に広まった＝常識化ということである。
- ・災害に対してはリスクを取ってはいけない。

2) 災害を取り巻く社会の変化

①天気の子測制度が格段に上がった（ウェザーニュース、アラート、アプリなど）

- ・気温、湿度に応じた保育を考えねばならない。
- ・知らないでは通用しない。

②お客様の安全よりも従業員の安全にシフト（責任回避できない）

- ・お客様を帰した後は責任が無い。従業員に対しては責任がある。
- ・職員の安全を確保せねばならない → 保育の継続性のため。

③想定外の災害はこれから毎年起きる可能性がある+地震（噴火）

- ・台風発生場所が日本に近づいているから。
- ・想定外の被害が起こる可能性があることを念頭に置かねばならない。

3. 感想

保育中の事故を防止するために職員の意識を向上させねばならない。いつも通りだから大丈夫ではなく、何か起こるかもしれないと意識しながら子どもたちと関わらねばならない。

自然災害が頻回に猛威をふるうようになってきている中、保育所もタイムライン防災を活用し、リスクを取らない保育をせねばならない。自分たちの職場を守るのはそこで働く職員である。利用者の安全を守ることが最優先だが、その安全を守るための仕組みを整えねばならないと感じた。

（記録 大宮北保育所 船戸美里）